

A 竹の中で見つけた子

基礎から標準へ | 全8問 | 目安25分

A～Cは練習です。Dのみ8問100点の確認テストです。

語の読みと意味を分け、主語と出来事の順序を確認します。

出典：作者未詳『竹取物語』冒頭「今は昔竹取の翁」から「豊になりゆく」まで

次の文章を読んで、あとの問いに答えましょう。

- ① 今は昔竹取の翁といふものありけり。野山にまじりて、竹をとりつつ、万の事につかひけり。名をば讃岐造磨となんいひける。その竹の中に、本光る竹ひとすぢありけり。怪しがりて寄りて見るに、筒の中ひかりたり。それを見れば、三寸ばかりなる人いと美しうて居たり。翁いふやう、「われ朝ごと夕ごとに見る、竹の中におはするにて知りぬ、子になり給ふべき人なんめり。」とて、手にうち入れて家にもてきぬ。妻の嫗にあづけて養はす。美しきこと限なし。いと幼ければ籠に入れて養ふ。
- ② 竹取の翁この子を見つけて後に、竹をとるに、節をへだててよ毎に、金ある竹を見つけること重りぬ。かくて翁やうやう豊になりゆく。

語注と背景

翁（おきな）＝年をとった男。嫗（おうな）＝年をとった女。ここでは翁の妻。
讃岐造磨（さぬきのみやつこまろ）＝翁の名。本（もと）＝根元。三寸＝約9センチメートル。
おはする＝いらっしゃる。なんめり＝であるようだ。もてきぬ＝持って来た。節をへだててよ毎に＝節と節の間ごとに。

底本：国民文庫。表記は教材用に一部整理。

語注・現代語訳・設問・解説は独自作成。

読み取りメモ 人物・出来事・筆者の考えを整理しよう。

A 竹の中で見つけた子

基礎から標準へ | 全8問 | 目安25分 | 設問

本文と語注は問題1ページ。選択は記号を○で囲む。句読点も1字です。
字数は句読点・かぎカッコ・小さい仮名も各一字と数えます。解答に書く①・②なども各一字です。本文に印刷された段落番号や、解答欄の外の番号は数えません。

問1 ②の「やうやう」を現代仮名遣いに直し、ひらがなで書きなさい。

--	--	--	--

4

問2 ①の「いと」の意味として、最も適切なものを一つ選び、記号を○で囲みなさい。

- ア 少し
- イ とても
- ウ いつも
- エ 急に

問3 ①の「美しき」の意味として、この子の大きさや様子に合うものを選びます。最も適切なものを一つ選び、記号を○で囲みなさい。

- ア 立派で威厳がある
- イ めずらしく不気味だ
- ウ 小さくかわいらしい
- エ 色があざやかだ

問4 ①の「怪しがりて寄りて見る」の動作をした人物を書きなさい。

--	--	--	--	--	--	--	--

8

問5 子が見つかった場所として、最も適切なものを一つ選び、記号を○で囲みなさい。

- ア 光っていた竹の筒の中
- イ 翁の家の籠の中
- ウ 竹林の入口の道ばた
- エ 黄金の入った袋の中

見直しメモ 主語と本文の根拠を確かめよう。

基礎から標準へ | 全8問 | 目安25分 | 設問のつづき

問6 翁は、なぜこの子が自分の子になるはずだと思ったのですか。会話を根拠に説明しなさい。（20字以上40字以内）

[illegible]

問7 ②で翁が豊かになっていく理由を説明しなさい。(30字以上50字以内)

[illegible]

問8 本文の出来事の順序として、最も適切なものを一つ選び、記号を○で囲みなさい。

- ア 黄金を得る→子を見つける→妻に預ける
イ 妻に預ける→竹が光る→子を見つける
ウ 子を見つける→黄金を得る→初めて竹を取る
エ 子を見つける→妻に預ける→黄金を得る

解き直しメモ 間違えた問いの根拠を書こう。

B 参拝での思い違い

標準・応用 | 全8問 | 目安25分

人物の思い込みと、本文・語注から分かる事実を区別します。

出典：兼好法師『徒然草』第52段「仁和寺にある法師」全段

次の文章を読んで、あとの問いに答えましょう。

- ① 仁和寺にある法師、年よるまで石清水ををがまざりければ、心うくおぼえて、ある時思ひたちて、ただ一人かちよりまうでけり。極楽寺高良などを拝みて、かばかりと心得てかへりにけり。
- ② さて傍の人に逢ひて、「年ごろ思ひつる事はたし侍りぬ。聞きしにもすぎてたふとくこそおはしけれ。そも参りたる人ごとに山へのぼりしは、何事かありけむ、ゆかしかりしかど、神へまゐるこそほいなれと思ひて、山までは見ず」とぞいひける。
- ③ すこしの事にも、先達はあらまほしきことなり。

語注と背景

仁和寺（にんなじ）＝京都の寺。法師＝僧。石清水（いはしみづ）＝石清水八幡宮。参拝の中心となる社は山上にある。

極楽寺・高良（こうら）＝山麓にあった寺・社。かちより＝徒歩で。かばかり＝これだけ。

傍（かたへ）の人＝そばにいる人。ほい＝本来の目的。先達（せんだつ）＝案内して導く人。

底本：國文大観 日記草子部。表記は教材用に一部整理。

語注・現代語訳・設問・解説は独自作成。

読み取りメモ 人物・出来事・筆者の考えを整理しよう。

B 参拝での思い違い

標準・応用 | 全8問 | 目安25分 | 設問

本文と語注は問題4ページ。選択は記号を○で囲む。句読点も1字です。

問1 ①の「まうでけり」の「まうで」を現代仮名遣いに直し、ひらがなで書きなさい。

--	--	--

3

問2 ①の「心うくおぼえて」に表れる法師の気持ちとして、最も適切なものを一つ選び、記号を○で囲みなさい。

- ア 年をとっても参拝していないことを残念に思う気持ち
- イ 一人で行けることを喜ぶ気持ち
- ウ 山道を歩くことを恐れる気持ち
- エ 人々の参拝をうらやましく思う気持ち

問3 ②の「年ごろ思ひつる事はたし侍りぬ」と言った人物を書きなさい。

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

10

問4 ①の「かばかりと心得て」が示す法師の思い違いとして、最も適切なものを一つ選び、記号を○で囲みなさい。

- ア 石清水八幡宮は京都にはないと思ったこと
- イ 山麓の寺・社を拝めば参拝を果たしたと思ったこと
- ウ 山に登る人はすべて神官だと思ったこと
- エ 極楽寺には一人で入れないと思ったこと

問5 法師が山に登らなかったのはなぜですか。法師自身の考えを説明しなさい。（30字以上50字以内）

18

36

50

B 参拝での思い違い

標準・応用 | 全8問 | 目安25分 | 設問のつづき

本文と語注は問題4ページ。

問6 ②から、法師が山の上に何があるか知りたいと思ったことを示す部分を抜き出さない。（8字。かぎかっこは含めない。）

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

8

問7 ③全体を、現代の言葉で訳しなさい。（45字以内）

18

36

45

問8 この話の構成として、最も適切なものを一つ選び、記号を○で囲みなさい。

- ア 法師が筆者の教えを受けてから、正しく参拝する
- イ 参拝者が法師の失敗を笑い、法師が反省する
- ウ 法師の行動と会話を示し、筆者がそこから得た教訓を述べる
- エ 石清水の歴史を説明し、筆者が別の寺を勧める

解き直しメモ 間違えた問いの根拠を書こう。

C 季節を味わう目

標準・応用 | 全8問 | 目安25分

描写されるものと、筆者の評価を対応させます。

出典：清少納言『枕草子』冒頭「春は曙」全体

次の文章を読んで、あとの問いに答えましょう。

- ① 春は曙、やうやう白くなりゆく山ぎはすこしあかりて紫だちたる雲の細くたなびきたる。夏はよる、月のころはさらなり、闇もなほ螢飛びちがひたる、雨などの降るさへをかし。
- ② 秋は夕暮、夕日はなやかにさして、山ぎはいと近くなりたるに、鳥のねどころへゆくとて三つ四つ二つなど飛びゆくさへあはれなり。まいて雁などのつらねたるがいとちひさく見ゆるいとをかし。日入りはてて風のおと虫のねなどいとあはれなり。
- ③ 冬は雪の降りたるはいふべきにもあらず。霜などのいと白く、又さらでもいと寒き、火などいそぎおこして炭もてわたるもいとつきづきし。ひるになりてぬるくゆるびもてゆけば、すびつ火桶の火も白き灰がちになりぬるはわろし。

語注と背景

曙（あけぼの）＝夜が明け始めるころ。山ぎは＝山の稜線に接する空のあたり。さらなり＝言うまでもない。

まいて＝まして。つきづきし＝その場にふさわしい。すびつ・火桶（ひおけ）＝炭火を入れる暖房器具。

この底本では冒頭に「冬はつとめて」がないなど、教科書で読む本文と表現が異なる場合がある。問いは掲載した本文に基づいて解く。

底本：國文大観 日記草子部 掲載名 枕草紙。表記は教材用に一部整理。

語注・現代語訳・設問・解説は独自作成。

読み取りメモ 人物・出来事・筆者の考えを整理しよう。

C 季節を味わう目

標準・応用 | 全8問 | 目安25分 | 設問

本文と語注は問題7ページ。選択は記号を○で囲む。句読点も1字です。

問1 ②の「ちひさく」を現代仮名遣いに直し、ひらがなで書きなさい。

--	--	--	--

4

問2 ①の「をかし」の意味として、最も適切なものを一つ選び、記号を○で囲みなさい。

- ア おもしろくて笑える
- イ 不思議で怖い
- ウ 趣があり心ひかれる
- エ 悲しくて苦しい

問3 ①の春の描写として、最も適切なものを一つ選び、記号を○で囲みなさい。

- ア 空が白み、紫がかった雲が細くたなびく
- イ 山が紫色になり、白い雲が太くたなびく
- ウ 空が暗くなり、紫の雲が消える
- エ 月が白く輝き、山に霜が降りる

問4 「雨などの降るさへをかし」の「さへ」から、筆者の夏の夜の味わい方がどう分かりますか。（25字以上50字以内）

18

36

50

問5 ②から、夕暮れの眺めの後に示される、聞こえるもの二つを含む部分を抜き出しなさい。（7字。かぎかっこは含めない。）

--	--	--	--	--	--	--

7

見直しメモ 主語と本文の根拠を確かめよう。

C 季節を味わう目

標準・応用 | 全8問 | 目安25分 | 設問のつづき

本文と語注は問題7ページ。

問6 ③で「わろし」と評しているのは、いつ、どのような状態ですか。（30字以上50字以内）

[illegible]

問7 本文の書き進め方として、最も適切なものを一つ選び、記号を○で囲みなさい。

- ア 一日の朝から夜までを同じ場所で説明する
イ 春から冬へ季節を分け、それぞれの風景や様子を評価する
ウ 冬の楽しさだけを理由とともに述べる
エ 四季について他人の意見を紹介し、すべて否定する

問8 本文から読み取れる筆者のものの見方を、自然と生活の両方に触れて説明しなさい。
(35字以上60字以内)

																		18	
																		36	
																		54	
						60													

解き直しメモ 間違えた問いの根拠を書こう。

D 木登り名人の注意

実力確認テスト | 全8問 | 目安30分 | 100点

基本事項を確かめながら、会話の理由と具体例の働きを読み取ります。

出典：兼好法師『徒然草』第109段「高名の木のぼり」全段

次の文章を読んで、あとの問いに答えましょう。

- ① 高名の木のぼりといひし男、人をおきてて高き木にのぼせて、梢をきらせしに、いとあやふく見えしほどはいふこともなくて、おるる時に軒だけばかりになりて、「あやまちすな。心しておりよ」とことばをかけ侍りしを、
- ② 「かばかりになりては、飛びおるるともおりなむ、いかにかくいふぞ」と申し侍りしかば、「その事に候ふ。目くるめき、枝あやふきほどは、おのれがおそれ侍れば申さず。あやまちはやすき所になりて、必仕ることに候ふ」といふ。
- ③ あやしき下臈なれども、聖人のいましめにななへり。鞠もかたき所を蹴出して、後やすくおもへば、必おつると侍るやらむ。

語注と背景

高名＝評判の高いこと。おきてて＝指図して。軒だけばかり＝家の軒の高さほど。
おりなむ＝きっと降りられるだろう。目くるめき＝目がくらみ。仕る（つかまつる）＝ここでは「する」の丁寧な言い方。
あやしき下臈（げらふ）＝身分の低い人。当時の身分意識に基づく表現。聖人＝優れた知恵をもつ人。
鞠（まり）＝蹴鞠の鞠。かたき所＝蹴るのが難しい所。

底本：國文大観 日記草子部。表記は教材用に一部整理。

語注・現代語訳・設問・解説は独自作成。

読み取りメモ 人物・出来事・筆者の考えを整理しよう。

D 木登り名人の注意

実力確認テスト | 全8問 | 目安30分 | 100点 | 設問

本文と語注は問題10ページ。選択は記号を○で囲む。句読点も1字です。

問1〔8点〕①の「あやふく」を現代仮名遣いに直し、ひらがなで書きなさい。

--	--	--	--

 4

問2〔8点〕①の「あやまちすな」の意味として、最も適切なものを一つ選び、記号を○で囲みなさい。

ア 早く梢を切りなさい

イ 失敗してはいけない

ウ まだ木に登ってはいけない

エ 一度失敗してみなさい

問3〔8点〕②の「いかにかくいふぞ」と尋ねたのは誰ですか。本文を語る人物との関係が分かるように答えなさい。

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

 14

問4〔10点〕②の「おのれがおそれ侍れば」の「おのれ」が指す人物として、最も適切なものを一つ選び、記号を○で囲みなさい。

ア 筆者

イ 木登りの名人

ウ 木に登っている人

エ 蹴鞠の名人

問5〔10点〕名人が声をかけた時点として、最も適切なものを一つ選び、記号を○で囲みなさい。

ア 木に登り始める前

イ 一番高い梢を切る時

ウ 地面に完全に降りた後

エ 降りて軒の高さほどになった時

見直しメモ 主語と本文の根拠を確かめよう。

D 木登り名人の注意

実力確認テスト | 全8問 | 目安30分 | 100点 | 設問のつづき

本文と語注は問題10ページ。

問6〔16点〕 名人が危険そうな高い所では何も言わなかった理由を説明しなさい。（30字以上50字以内）

[illegible]

問7〔20点〕 ②の「あやまちはやすき所になりて、必仕ることに候ふ」を現代語訳しなさい。（40字以内）

[illegible]

問8〔20点〕 ③で蹴鞠の例を加えたのは、どんな教訓を示すためですか。木登りにも共通する点を書きなさい。（40字以上65字以内）

																	18	
																	36	
																	54	
											65							

得点 / 100点

解き直した日 月 日

解き直しメモ 間違えた問いの根拠を書こう。